

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	キッズラボ西葛西園
施設所在地	江戸川区西葛西8-4-13 リビオシティ西葛西親水公園1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

# 光と影

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育室の一面がガラス張りであることから、時間や天候、季節によって差し込む日差しに違いがあったり、カラーセロファン等を当てて色の変化を不思議がったり楽しむ様子が見られていた。また戸外活動などで、日の光と影について子どもたちが興味を持って話す様子が見られたことから、さらに興味関心を深めたいと思った

## 2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

- ①7月：園外施設見学、 ②8月：水遊びでの影探し  
③12月：園外施設見学、 ④1月：園外施設見学

その他、日々の保育の中で、子ども達の興味関心に応じて柔軟に活動を実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

戸外での影探し、保育室で懐中電灯を使って室内の様々な場所を照らしたり玩具を照らしたりして、光と影の様子を楽しむ、セロファンを使った製作物、アクリル積み木やウォーターブロックを使った光遊び、光テーブルを使った自然物の観察や玩具を置いて光る様子を楽しむ。室内を暗くして活動する際には、安全に留意した室内環境とした。

(光テーブル、カラーセロファン、アクリル積み木、ウォーターブロック、手持ちライト、ブラックライト、ブラックライト用パネル板、落ち葉、プラ標本、水遊び用たらいなど)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・ 戸外での影探しでは、影があることに気づき、時間によって影の形が変わったり、位置の違いに気づく
- ・ 懐中電灯で明かりをあてることで、壁や床にできる影を楽しんだり、ウォーターブロックやアクリル積み木越しに見える風景に色が付いていること、重ねることで色が変化することに気づく
- ・ 園外施設で、光と影の織り成す空間を楽しんだり、光による明度の違いに気づく
- ・ 光テーブルで落ち葉を透かしてみることで、葉脈に気づく

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 公園に到着した時と帰るときの影の位置が違うことに気づき、互いに教えあう様子が見られた。日影と日向を往来して楽しむ姿が見られた
- ・ 戸外で見つけた水の影に対して「影が隠れている」と不思議そうに見る様子が見られた
- ・ 懐中電灯の映し出す丸い光に「お月様みたい」と喜ぶ姿が見られた
- ・ アクリル積み木やウォーターブロックを重ねると色が変わることに気づき、教えあう姿や他の組み合わせを楽しむ姿が見られた
- ・ 7月の園外施設では、光が映し出される床を足で踏んだり、光の模様を手で触ることで、形や場所が変わる様子を喜び、繰り返し楽しんだり、自分の物や動かした模様を他児に教えあう姿が見られた。12月には暗い照明の中で人がどのように見えるか？戸外との違いに気づいたり伝え合う姿がみられた。1月には、様々な素材を触れながら、光を通すもの、通さないもので区別したり、光を通すと色が混ざるもの、通さなくても色の違いを楽しめるものを見つけ互いに伝え合う様子が見られた





## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・夏季は気温が高く戸外に出られない日が多かったため、水遊び時や室内での活動を行った
- ・懐中電灯を多めに用意したことで、一人ひとりが十分に楽しむことができた反面、低年齢児クラスにおいては、すぐに飽きてしまう児もおり、展開の仕方に工夫が必要だと感じた
- ・1, 2歳児クラスではアクリル積み木やウォーターブロックを投げたり、鞆に詰め込んで持ち歩く姿が多くみられ、色の変化や光の面白さを伝えることは難しかった
- ・園外施設の見学では、様々な空間を限られた時間で回ったため、一つ一つの空間を十分に楽しむことができなかった。また集団であることから、待つ時間も長くなってしまった。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	キッズラボ西葛西園
施設所在地	江戸川区西葛西8-4-13 リビオシティ西葛西親水公園1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

# 五感で楽しむ食育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園で展開している食育活動から様々な食材に触れる経験を通して、食に興味を持ち、意欲的に食事をするだけでなく、食材に触れて感触や匂いなどを確かめる姿が見られるようになっていた。

特別な活動としてではなく、食育を日常の活動として取り組みたいと思い、テーマとした

## 2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

- ①4～9月：玉ねぎの皮を剥く
- ②10月：玉ねぎ染めTシャツの制作
- ③1～3月：米とぎ・野菜切り・カレーライスづくり

通年、朝の活動として当日の献立に使用する食材に触れる活動を実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

安全に留意しながら、色の変化に気付いたり集中して作業を行えるよう室内環境を整えた。

(ざる、ボウル、炊飯器、ピーラー、なべ、白Tシャツ、輪ゴム、、カセットコンロ、玉ねぎの皮など)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・日々の給食食材を実際に触ったり、匂いを嗅いだりして、食材への興味と給食への期待感をもち、実際に調理されてきた物を見て食べる意欲へとつなげていく
- ・朝の食材活動で玉ねぎの皮を剥き、鍋で煮だした染め液に、自分で輪ゴムで縛った白Tシャツを漬け込み、揉んだりして色の変化を楽しんだ。  
染めあがったものを室内に干すことで、自分以外の他児の作品にも興味示す様子が見られた。完成した玉ねぎ染めTシャツは園外活動で着用
- ・米を研ぎ、炊飯器でご飯を炊く、ピーラー、包丁を使って野菜を切る、などの活動を繰り返し行い、実際にカレーライスを作り上げた

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・食材に触れる活動では、最初は触りたがらない児もいたが、毎日繰り返すことで少しずつ触れられるようになった。また小松菜やしいたけなどの食材に触れた際には、「臭い」という声も聞かれたが、実際調理して出てくると、喜んで食べる姿が見られた
- ・白Tシャツを輪ゴムで縛る際には、どんな模様になるのか楽しみにしながら行う様子が見られた。くるくると棒状に巻いたものを輪ゴムで数か所留めて「ラプンツェルみたい」と見せ合う姿もあった。色が変わっていく様子が面白く、染め液の中で何度もTシャツを揉みこむ姿が見られた
- ・ピーラーで皮を剥く際に、剥きやすいよう人参などの向きを変えたり、左手を添えなおしたり工夫する姿が見られた。慣れてくるにつれ、大きさをそろえようとする姿も見られた。実際に自分たちで炊いたご飯を食べることで、次の意欲へとつなげることができた





## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 朝触れた食材を給食に見つけ、「あった」というように指差して教えようとする姿や、苦手な食材でも自分から一口食べてみようとする姿が見られた
- ・ 輪ゴムで縛る際、友達の良い真似をする児が多く、言葉かけを工夫する必要がある。ただ、同じように縛っているようでも出来上がりの模様はそれぞれ違いがあり染めの不思議さも感じる事ができた
- ・ 包丁やピーラーを使用する際、使い慣れていない児は扱い方が危険な場面が見られたため、個別に対応することで安全を担保した
- ・ 米研ぎの際、手に付いた米を振り払って落とす姿が見られたため、振り払ってしまうと食べられなくなること、一粒一粒を大切にすること、などを伝えたことで、手のついた米粒をどうやったら無駄にせず取ることができるか？子ども同士で工夫する姿が見られた

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	キッズラボ西葛西園
施設所在地	江戸川区西葛西8-4-13 リビオシティ西葛西親水公園1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

# 四季を感じる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園周辺にたくさんの公園があり、四季折々の自然物を楽しめる環境を活かして、四季を通して身近な自然に興味関心をもつ子ども達が多い。

自然物の観察を通して、知らないことを知る喜びを感じさせたいと設定した。

## 2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

通年、近隣の公園等に出かけ、見つけた葉っぱや虫を虫眼鏡で見たり、図鑑で調べたりする。日々の保育の中で、子ども達の興味関心に応じて柔軟に活動を実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

虫眼鏡・顕微鏡・模造紙・写真印刷用紙など

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

通年：季節ごとに公園に行き、違いを見つける

気になったものを写真に撮ったり、虫眼鏡で観察する

拾った自然物を持ち帰り、顕微鏡で観察したり、図鑑で調べる

気づいたこと、発見したことを発表しあう。

季節によって、みられる種類が違うことに気づく



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

四季を取り上げてみたが、夏は気温が高く公園に出かけることができなかった。そのため、水遊びや室内でできる感触遊びを行うことで「夏」を感じられるような活動を行った  
多くの戸外活動を通じて、春の暖かさ、秋の心地よさ、冬の寒さを感じることで、四季を実体験として感じることもできた

身近な虫や植物に触れ、虫メガネや顕微鏡で観察することで自然を感じる活動にすることができた